

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

No. 179

2023.11



Contents

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1 表紙 | |
| 2 自然観察指導員講習会の報告(8/19~20) | 名古屋支部 浅井 聡司 |
| 3 あいちの自然観察会の報告(9/30) | 西三河支部 三田 孝 |
| 4 オセアニアの自然シリーズ2 ウルルの焼け跡 | 東三河支部 中西 正 |
| 5 湿地シリーズ12 小幡緑地本園 | 名古屋支部 石原 則義 |
| 6 支部自然自慢 東三河自然公園 | 東三河支部 星野 芳彦 |
| 7 なごや生きもの一斉調査 2022(陸貝編) | 名古屋支部 脇田 剛 |
| 8 新指導員の自己紹介 | 事務局 |
| 9 新指導員の自己紹介 | 事務局 |
| 10 愛知県野生生物保護実績発表大会報告 | 名古屋支部 浅井 聡司 |
| 10 ご案内/編集後記 | 事務局 |

今号の表紙

ウチワヤンマ ♀

(東谷山湿地群保全の会) 福田 利夫
生き物のアップの写真募集中!

自然観察指導員講習会の報告

名古屋支部 浅井 聡司

日 時 : 8月19日(土)~20日(日)
場 所 : 美浜少年自然の家
受講者 : 55名(内愛知県42名)
スタッフ: 13名(日本自然保護協会3名、
県内10名)

講習会の内容

開講式では、来賓として愛知県自然保護課の酒井裕史さんが挨拶し、講師は佐野由輝さんと田畑清霧さん、自然保護協会の金谷竜二さんが紹介されました。現地スタッフは、竹内秀代さん、浅井一光さん、霜桂子さん、辻愛子さん、浅井昭枝さん、高松一史さん、武田和樹さん、山本博美さん、瀧崎吉伸さん、そして浅井です。

当日は天候に恵まれ、実習や講義を予定通り行うことができました。しかし猛暑日の中、熱中症や体調不良が出るのではと懸念されましたので、細心の注意が必要でした。次回からは、夏の暑い時期での講習会は、避けた方がよいと思われます。

プログラムに沿って、受講生一同で「森のスケッチ」、「森の中での落ち葉めぐり」の実習を行い、自然の保護について、自然の観察についての講義があり、1日目が終了しました。またコロナ禍で中止されていた、宿泊者一同による懇親会を実施することができました。この懇親会で、今回の講習会に参加した人たちの自然に対する意識の高さがわかり、活発な談笑につつまれたひとときを過ごすことができました。参加者の皆様方に、感謝いたします。

2日目の実習は「海の観察会」でした。自然観察のテーマ探し、ミニ観察会の企画と実施、自然観察指導員の腕章の授与、自然保護協会への登録、協議会への登録をしました。ミニ観察会では、指導員になられた

方ならわかりでしょうが、自分が選んだテーマを緊張と不安の中で一生懸命に取り組む参加者の姿がありました。私たち協議会の会員も初心に立ち返り、日々の自然観察会に心を新たにしたいと思いました。

まとめ

自然観察指導員講習会は、日本自然保護協会が主催し、愛知県自然観察指導員連絡協議会が共催し、愛知県が後援して行われました。他県から、岐阜、三重、滋賀、静岡、東京、神奈川、鳥取からの参加者もありました。

今回、5名の女性のスタッフに参加していただき、和やかな雰囲気で行うことができました。スタッフの方々には、感謝感謝です。

今回の講習会の席上で、協議会に29名の方が入会しました。協議会ニュース179号で自己紹介していただきます。



指導員講習会



指導員講習会

あいちの自然観察会の報告 六所山自然観察会(豊田市)

西三河支部 三田 孝

日 時： 2023 年 9 月 30 日(土) 9:00～12:00

テーマ： 六所山の秋を楽しもう

参加者： 一般2名、会員9名 合計11名

担 当： 馬場、石黒、武田

六所山は徳川氏発祥の地として知られる松平郷にある標高 611m の山です。麓には豊田市総合野外センターがあり、キャンプ場やハイキングコースが整備されています。山頂にある六所神社上宮への参道一帯は六所山原生林として保護され、スギやモミの大木が立ち並んでいます。

今回は総合野外センター西駐車場を起点にキャンプ場管理棟脇の林道コースをイノシシコース分岐まで進み、そこから山頂へは向かわずイノシシコースを下り鳥居のある登山口へ。西駐車場までは上り坂の車道歩きになりました。

下見をされた馬場さんの判断で今年は秋の訪れが遅いので急遽キノコ中心の観察に切り替えました。死亡する可能性の高い「猛毒菌」の紹介があり、他所で採集のドクツルタケが示されました。

歩き出してしばらくはモミの大木の森で、その下にはセンボンヤリ、サジガンクビソウが見られました。次にアカガシが多くみられる森になり、その下にはラッパの形をしたウスタケを見つけました。林道脇にはシカの食害で残りがちなマツカゼソウやナガバノヤブマオ、それらに加えセキヤノアキチョウジ、レモンエゴマが見られました。

そして本日一番盛り上がったのはカリガネソウでした。草刈りなどで減少したり、秋が遅いこともあり、見られないのではと諦めていたところ一株だけ咲いていたのです。



カリガネソウ

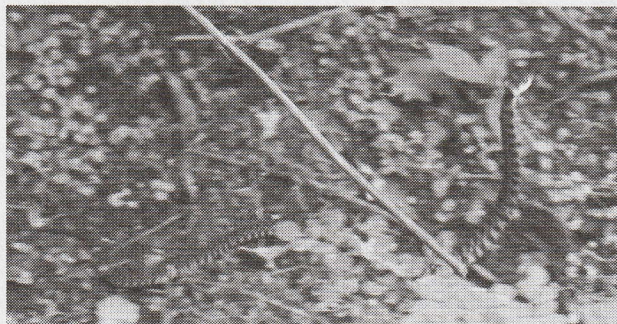
キノコでは同心円状のヒダを持つウズタケ。なかなか見られないキノコのようなです。枯れたモミの巨木には巨大なツガサルノコシカケ。派手な佇まい

だけれど食用菌というテングタケ属のタマゴタケ、などを楽しみました。



タマゴタケ

林道脇の草むらにヤマカガシ発見！ 尻尾を踏んだので激昂。大きく見せるためか体を平たくして鎌首を立ち上げる姿はコブラのよう。でも立ち向かっては来ず、一目散に逃げていきました。



ヤマカガシ

舗装道路に出からはコブナグサ、センブリの蕾、ツルリンドウ、テンナンショウの実、ヤマジノホトトギス、ミゾソバ、スズカアザミなど秋の到来を感じることができました。

ピースボートで見た『山火事と自然』

2. ウルルの焼け跡

東三河支部 中西 正

数年前までウルルにあるこの岩はエアーズロックと呼ばれ、登山の対象だった。また、地球のへそとも呼ばれ、多くの人がこのに来る目的はこの岩に登ることだった。

登山目的で来る人によってゴミが増え、岩が削られた。今でも登山道だったところは白い筋として残っている。当時は、登山道入り口の前の広場は登山者でいっぱいだったという。かつてここを訪れるのは日本人が一番多く、地元では非難されていたという。聖地であるこの地は、2010年には登山を禁止する方向が示され、2019年に禁止された。私達が訪れたほんの少し前の話である。

この地の雨量は300mm/年で準砂漠の気候である。見える植物はオーストラリアに特徴的なもので、乾燥に適応しており、葉は小さく、細毛で被われ、白っぽい。地表には植物がパラパラと生え、場所によってはブッシュになっている。植生を整備し、保護するにあたって人手を加えないという西洋式の管理を始めたが、結果的に森が繁り過ぎてしまった。そこに山火事が入った時、よく燃えて保護区の70%を燃やしてしまった。その結果、この地域の生き物の40%が死ぬという大災害になってしまったという。

35年前の10月26日、この岩はアボリジニーの人々に返還された。現在は99年間のリース契約で政府が借りている。その管理は8人のアボリジニーの人々と4人の西洋人によってなされており、返還されて2年後には世界文化遺産として登録された。この公園地域に入るには入場料が25ドルかかり、その75%は管理に使われ、25%がアボリジニーの人々の生活に使われている。

現在、この地はアボリジニーの人々の文化と自然が結び付いて世界遺産の複合遺産になっている。

この場所がアボリジニーの人々に返還されたのを機会に彼らに自然管理が任された。その結果、植生の管理には古来の方法をとることになった。それは部分的に火入れを行うということで、これを続けて若い草を常に生やしておくようになった。この草こそ赤土の飛散を押さえると同時に動物の餌を確保しているという。バスから見ると広いあちらこちらに幹が焦げた木が残っており、火入れを行っていることが伺われた。今ウルル周辺で見る景観は3万年前と同じものであり、それはアボリジニーの人々の文化の元に維持されているからである。



焼け残った幹



ウルル周辺の植生

湿地シリーズ 12 小幡緑地本園のマメナシ・湿地の活動紹介など

名古屋支部 石原則義

マメナシは、愛知県のレッドリストでは絶滅危惧種 1A 類であり、国内における自生地は、愛知県・三重県・岐阜県のみ。東海 3 県に約 80 箇所、成木の個体数(樹高 1m 以上)は、約 350 株で、多くの生育地では、単木で成育しているのが実状。守山区には、約 150 株が自生。小幡緑地本園には約 40 数株自生している。

マメナシを“郷土の宝”として未来を生きる子どもたちに残していくことが、私たち保全をするものの使命であると考えている。人が手を入れなければ、名古屋市からマメナシが絶滅する可能性も考えられる。

小幡緑地本園では、2004 年からせせらぎ湿地・ダム下湿地とマメナシの保全を、汗と愛情をもって、月 2 回の保全をしてきた。人数は 10 名程度。

小幡緑地は約 37ha。マメナシの自生木は、10 数箇所に点在している。具体的には、除伐、下草刈り、マーキング調査、保護柵設置、コドラート調査、耕転作業、樹勢調査(開花数・樹高・枝張り・結実数)、幼木・実生の調査をしている。

せせらぎ湿地・ダム下湿地には、踏圧を防ぐために木道を設置し、木道の上から植物・昆虫の観察をしている。せせらぎ湿地では、シラタマホシクサ、サギソウ、ザイフリボク、ハルリンドウ、トウカイコモウセンゴケ、ノハナショウブ、コバギボウシ、コガマが楽しめる。ダム下湿地では、ノカンゾウ、スイラン、シラタマホシクサ、ミミカキグサ、クロミノニシゴリをみることができる。

2022 年度のせせらぎ・ダム下湿地の保全活動の総括としては、湿地の特性を活かし持続可能な湿地の保全をめざした。

① 湿地保全とマメナシ保全を合同で行っ

た。② 木道が老朽化し補修作業に多くの時間を要し、その結果、保全活動が手薄となった。③ 湿地内の樹木が大きく生長し、蒸散、日照、落ち葉など、問題の多い樹木が数多く残った。④ 小幡の森通信を活用し、湿地の保全状況や湿地の見どころ紹介をした。

マメナシ保全活動の総括としては、小幡緑地のマメナシを保全し、マメナシの自然更新出来る環境を維持し、整備を継続した。

① 湿地保全とマメナシ保全を合同で行った。② 自然更新可能自生地を優先し、小幡緑地管理事務所と連携して保全を行った。③ 保全の大切さを観察会でアピールし、勧誘をした。

センター祭りのブース展示では、マメナシのパネルとマメナシの花に来るポリネーター(受粉者)の展示、果実・実生・幼木の展示。講習会では、保全と観察、マメナシの花、実生のマーキングをしている。

自然観察会は月に 1 回、参加者は 30~40 名程度で、園内の四季折々の植物・昆虫の観察をしている。



マメナシの実生のマーキング



ダム下湿地の保全作業

支部自然自慢 東三河ふるさと公園 ～ついに定例自然観察会165回達成！～

東三河支部 星野 芳彦

東三河ふるさと公園は、2006年3月、愛知県では、11番目の県営の都市公園（広域公園）として開園しました。豊川市御油町・国府町・御津町金野・御津町豊沢にまたがる広大な敷地で、元々は、遠見山キャンプ場（豊川市野外教育センター）でした。園内には遊歩道が整備され、標高194メートルの遠見山山頂は、眼下に渥美湾を一望できる絶景展望スポットです。空気の澄んだ日には、遠く浜松市街地や富士山も望めます。

私たち東三河支部（NPO法人東三河自然観察会）は、従来、観察地点を固定して観察会を定期的に行う「定例自然観察会」と場所と日にちを任意に決めて行う「地域自然観察会」の二本立てで活動しています。

東三河ふるさと公園からの業務委託を受け、定例自然観察会の一環として、開園の年から2016年までは、毎月観察会を開催しました。翌年の2017年からは、2ヶ月に1回の年6回となりました。途中、悪天候やCOVID-19感染拡大防止のため、中止を余儀なくされることもありましたが、2023年9月までで、165回の実施に至っています。

自然観察会は、管理棟正面での開会から始まり、本公園のシンボリックな存在である「修景池」ほとりの広場からスタートします。「定例」のメリットは、同じ地点での季節の移ろいをよく感じ取れることです。全く同じ地点からの木々や空の様子は季節を追うごとに見事に変化していきます。

アクセスしやすいこともあって、遠方からお越しの方々も多いですが、日頃散歩などを楽しむ地元の皆さんが、たまたま観察会に参加し、これまで気付かなかった動植物を私たちと一緒に観察して、常連さんとして来てくださるようにもなりました。観

察会を通じて、そのような地元の人との絆も出来てきて、「もう、キビタキが鳴いてるよ！」などと地元ならではの新鮮な自然情報も提供していただけます。

自然観察会では、担当幹事が季節に応じたテーマを毎回設けます。「秋に渡りをする鳥やアサギマダラを探そう」といった具体的なものから、「今日からあなたもトコロジスト！」という些か意味不明なものまで、参加者の好奇心をかき立てます。

実際、植物、軟体動物、節足動物、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類、岩石・地質、気象現象、天体と予めの計画を超えてスタッフ総がかりで盛上げています。ちなみに、記念すべき第1回目の2006年4月23日には色とりどりに染め分けられた周りの「山が笑う」様子を眺め、毎年1段づつ成長するウラジロの芽出しを観察しました。また管理棟内では、ふるさと公園付近で観察できる動植物の写真展示も同時開催しました。直近の9月17日実施の観察会では、残暑にも拘わらず、子ども22名を含む51名の参加者がアオダイショウのタッチ体験（下の画像）をはじめ、カマキリやバッタ類、ルリタテハ幼虫、アカボシゴマダラなど虫の発見大会、フジバカマやヒガンバナなど秋の植物の観察で子どもも大人も大盛り上がりの120分でした。



「アオダイショウ」タッチ体験

なごや生きもの一斉調査 2022 の報告(陸貝)

一竜泉寺と小幡緑地本園一

名古屋支部 脇田 剛

なごや生きもの一斉調査(なごビオ主催)では、市民が身近な生きものに親しみや関心を持つきっかけになることを願って、毎年調査項目を検討し、一斉調査を10年以上続けている。名古屋支部の指導員は100名。その3割近くがリーダー、サブリーダーとして協力している。

日時:10月8日(金)~10日(日)

10:00~12:00

場所:名古屋市内66地点(市内58地点、市外8地点)

参加人数:延べ715名

調査結果:全57種、8,424個体の陸貝が発見された。2012年に行われた市内33地点での一斉調査よりも10種の増加となった。

在来種3種と外来種3種が市で初めて確認された。在来種の初記録はイボイボナメクジ(準絶滅危惧・NT)、タカキビ、カタママイマイ(絶滅危惧Ⅱ類)でこれらはすべて東谷山(守山区)で発見された。

東谷山の雑木林の環境が良好であることの指標になると考えられる。

竜泉寺の調査の様子など

陸貝はカタツムリやナメクジなど大きな種類も含まれるが、数ミリサイズの小さな種類が大半を占めることが、今回の一斉調査でよく分かった。



陸貝調査

10/10 竜泉寺

私は、「竜泉寺」境内にある雑木林での「陸貝調査」に、リーダーとして参加させていただいた。始めに目視で石の上や、樹木の幹や葉などに付いている大型種を見つけた。その後、腐葉土を洗濯ネットの中

に入れてふるいにかけ、小型種や微小種を捕獲しようと試みたが、前日からの雨降りで腐葉土が水浸しになり困難になった。一方で、雨に濡れた墓の石を登っている多くの陸貝を見た。

市内では「竜泉寺」にしか棲息しないヤマタニシや、準絶滅危惧種になっているニッポンマイマイとオオケマイマイが見つかった。一方、イセノナミマイマイなどどこにでも見かけるものもいた。

身近な雑木林の中で様々な陸貝の分布が広がり、市内に残された自然の中で多くが育まれていることに気づかされる。

なごや生きもの一斉調査 2022 の報告書によれば「微小な陸貝の種類の多さに驚いた」と、多くの参加者の感想が寄せられている。自然度の高い所だけにしか生息しない種、乾燥に強い種、市街地を好む種というように、陸貝は陸上の様々な環境に適応していると思われる。今後も新しい種の発見が期待できる生きものであると思う。

小幡緑地本園(石原則義)

10年前の調査に比べると発見種数が10種から4種に減ってしまった。

絶滅危惧Ⅱ類のビロウドマイマイや準絶滅危惧メカサキビは姿を消し、東南アジア原産の外来種トクサオカチョウジガイが急増した。



陸貝調査 10/9 小幡緑地本園

新指導員紹介

2023 年、愛知県美浜少年自然の家で自然観察指導員講習会を受け、県協議会に入会された 29 名中 13 名の方の自己紹介です。

- ・青木 久代（知多）：育った環境と会社の現在業務から環境への関心が高まりました。皆様と共に自然を大切に共存できるようになれたらいいと思います。よろしくおねがいたします
- ・青山 麻衣子（尾張）：10 年ほど愛知県森林公園に通っています。自然と植物、ネコが大好きです。
- ・荒川 純仁（名古屋）：不思議なことに興味関心があります。最近藤前干潟で微小貝をやっていますが、泥の質や粒子などを見て地質や岩石にも興味湧いてきました。山川海…と全ての生き物が繋がっている営みにロマンを感じます。生き物の系統分類にとっても興味があります。また、植物を学ぶため標本 1 万点を目指して頑張ります。何でも食欲に吸収したいです。よろしくお願いいたします。
- ・石川 盛久（西三河）：尾張旭市に住んでおります。自然の素晴らしさ、不思議さなどを子供達に伝えられるようになりたいと思っております。よろしくお願いいたします。
- ・小林 龍彦（尾張）：尾張旭市の愛知県森林公園の間近に住んでいます。定年退職後、健康維持のために森林公園植物園とその周辺をウォーキングしていて草花に興味を持ちました。その後、植物園の主催イベントに通ううちにシラタマホシクサやシデコブシなどこの地域ならではの貴重な植物があることや自然の大切さを知り、これをぜひ次の世代に残さねばと思うようになりました。現在、森林公園植物園主催の月例イベント「道草ウォーキング」のボランティアガイド、尾張自然観察会森林公園自然観察会のお手伝いをさせていただいています。何卒よろしくお願いいたします。
- ・齋藤 俊哉（西三河）：登山が好きで山の中の大自然も良いのですが、街の中の小さな自然により興味を持つようになりました。身近な自然の観察や保護を通じて、たくさんの方に自然への関心を持ってもらえるような活動ができればと思っています。
- ・竹宮 香織（名古屋）：ピアノ調律師です。休日はボーイスカウト指導者として活動していくなかで、自然を保護する大切さを感じ指導員講習会を受講しました。生物が好きですが、ゴキブリだけは苦手です。少しずつ知識を深め、自然保護の輪を広げていくことができるようになりたいと思います。先輩方や同期の皆さんと一緒できる機会を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・椿 真紀子（名古屋）：初めまして。東山動植物園各シーズンの色々な植物を、散歩しながら楽しもうと思っています。これからどうぞ宜しくお願い致します。
- ・野田 二三子（名古屋）：コケ植物を中心に活動中です。視線の先は常に緑色のため、色とりどりの他の植物にドキドキします。大きな樹木に惚れ惚れします。名前や植生をフィールドで確認しながら、ひとつずつ覚えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
- ・手島 正博（西三河）：山歩き再開をきっかけに自然について深く知りたいと思うようになり自然観察指導員研修を受講しました。近い将来自分の観察会を持つことを目標に現在勉強中。いろんな観察会に参加して経験を重ねたいと思っています。よろしくお願いいたします。
- ・土井 大介（東三河）：登山と自然が好きで、登山中に色々な木々や植物、動物を観察するのが好きです。指導員として、まだまだ未熟者ですが皆様よろしくお願いいたします。

新指導員紹介

- ・松原 隆治(尾張)：子どものころから昆虫採集が好きでしたが、専門的知識はありませんし、植物は全く知りません。なんでも積極的に学びたいと考えていますので、ご指導・ご教示のほどよろしくお願いいたします。趣味はオートバイによるソロツーリング、サイクリングです。
- ・渡辺 淑子(西三河)：以前から里山や山が好きで、花から始まり、樹木の名前を覚えるのが楽しかったです。ここ数年、バードウォッチングも始めました。生き物も好きで鹿や熊が殺されるのが嫌で仕方なかったのですが、山が荒れているのを見ると仕方がないのかな、どうしたらいいのかなと悩ましいです。風力発電で鳥が死んだり、干潟が無くなったり、農薬で蜂や虫がいなくなったりと、自然が好きだから少しでも食い止めるのにできることをしたいと思っています。よろしくお願いいたします

愛知県野生生物保護実績発表大会の審査員として参加しての報告

8月3日(木)に、刈谷市産業振興センターで、愛知県野生生物保護実績発表大会～輝く未来のいきものサポーター～が行われました。この大会では、次世代を担う小中高の児童や生徒が主体となって行っている野生生物の保護保全活動の状況とその実績・研究成果について発表する機会をつくり、県に野生生物の保護に関する普及啓発と環境保全の意識の高揚し、生物多様性の主流化推進することを目的としています。

この会を後援している団体は、愛知県教育委員会、愛知県自然観察指導員連絡協議会、公益社団法人愛知県獣医師会、日本野鳥の会愛知県支部、環境省中部地方環境事務所、県内9地域(知多半島、東部丘陵、西三河、尾張北部、新城設楽、東三河、渥美半島、西三河南部、尾張西部)生態系ネットワーク協議会が携わっています。発表校及び発表テーマは以下の通りです。

ETNO2：岡崎市立生平(おいだいら)小学校 愛知県知事賞

テーマ 守ろう！野鳥がすみ続ける『ふるさと生平』

内容 野鳥をもっと大好きに、野鳥をもっと守りたいを目的に知る・守る・広げる・つなげる活動の実践報告を発表しました。

ETNO4：豊田市立滝脇(たきわき)小学校 愛知県知事賞

テーマ 私たちの愛鳥活動知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森広げよう！地域へ

内容 全校児童で、6年間を通した愛鳥活動を行っています。低学年は給餌活動、中学年はツバメの調査、高学年は営巣調査。ツバメの数が減っていること。営巣に失敗し餓死したシジュウカラの雛のこと。

ETNO7：愛知県立佐屋高等学校(愛西市) 愛知県知事賞

テーマ 愛西市内水路における淡水性カメ類の生態と行動特性

他には、ETNO1：豊田市立上鷹見(かみたきみ)小学校 テーマ 自然と人とが共生するふるさと“鷹見の里”をつくろう。 ETNO3：岡崎市立美合(みあい)小学校 テーマ 生田(しょうだ)蛭は「美合の宝」～気付き 考え 実行する ホタル飼育部～ ETNO5：岡崎市立東海中学校 テーマ 未来へつなぐ(たすき)～東海の自然を次代につなぐ～ ETNO6：岡崎市立河合中学校 テーマ 河合の宝 ゲンジボタル～伝統の継続 そして一歩前進～ ETNO8：学校法人高倉学園 豊橋中央高等学校(豊橋市) テーマ 地域河川における生物多様性の保全活動 ミナミメダカ ETNO9：愛知県立明和高等学校(名古屋市東区) テーマ 明和高校周辺の生態調査 タヌキ ETNO10：愛知県立豊田西高等学校(豊田市) テーマ 産・学・公が連携した環境改善事業～MORIBITOプロジェクト～

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

No. 179

2023.11



Contents

- | | | |
|----|------------------------|-------------|
| 1 | 表紙 | |
| 2 | 自然観察指導員講習会の報告(8/19~20) | 名古屋支部 浅井 聡司 |
| 3 | あいちの自然観察会の報告(9/30) | 西三河支部 三田 孝 |
| 4 | オセアニアの自然シリーズ2 ウルルの焼け跡 | 東三河支部 中西 正 |
| 5 | 湿地シリーズ12 小幡緑地本園 | 名古屋支部 石原 則義 |
| 6 | 支部自然自慢 東三河自然公園 | 東三河支部 星野 芳彦 |
| 7 | なごや生きもの一斉調査2022(陸貝編) | 名古屋支部 脇田 剛 |
| 8 | 新指導員の自己紹介 | 事務局 |
| 9 | 新指導員の自己紹介 | 事務局 |
| 9 | 愛知県野生生物保護実績発表大会報告 | 名古屋支部 浅井 聡司 |
| 10 | ご案内/編集後記 | 事務局 |

今号の表紙

ウチワヤンマ ♀

(東谷山湿地群保全の会) 福田 利夫
生き物のアップの写真募集中!